非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2016 年 7 月 20 日　月刊第 216 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　2016 年国民平和大行進・参加レポート　神田順一
3 面　非核の政府を求める石川の会 2016 年度活動方針・要点
4 面　県内全市町が平和首長会議に加盟
5 面　ヒバクシャ国際署名をすすめる石川の会を発足　池田治夫
清水正明医師の広島被爆絵画展・開催案内
6 面　友禅染・絵詞「めぐる・いのち」紹介　参議院選挙を終えて　永山孝一、中村昭一
6 面　エッセー：戦争か平和か　渡辺裕子
7 面　独標より：弥生のそらは　大川陽一
編集室より
8 面　被爆者が描いた体験画展　中田喜重
絵手紙コーナー　田伏久子

二〇一六年原水爆禁止国民平和大行進　参加レポート

神田順一

二〇一六年原水爆禁止国民平和大行進の県内行進は、「能登コース」が六月一二日輪島市を起点に一七日内灘町まで、「富山＝広島コース」が一八日富山県境・九折で富山県から横断幕を受け取り、二四日福井県吉崎で福井県に引き継ぐ行程です。

非核の政府を求める石川の会では、五月に実施した「二〇一六年度平和事業に関する自治体アンケート集約結果」（前号に同封）を各自治体総務課に直接届けることも含めて今年も平和行進に参加しました。特に印象深かったところを報告します。

毎年、輪島市から行進をスタート

【能登コース】

◎初日は輪島市役所に三二人が集合。観光客で賑わう朝市通りを行進しました。事前に一〇〇店舗程ある朝市のおばちゃんたちに「ヒバクシャ国際署名」を配布してあるため、おばちゃんたちから行進参加者に次々と声がかかり、署名は一三〇筆も集まりました。平和行進の長年の実績と期待の大きさを知ることができました。

◎穴水町は今年はじめて役場ロビーで「原爆と人間」パネル展を開催しました。五月半ばに平和行進実行委員会が「原爆と人間展」未開催の穴水町にパネルの貸し出しを提案し、了解されたものです。穴水町は本年四月に平和首長会議に加盟しており、町民対象の平和事業として六月六日から一三日まで町主催でパネル展が開催されました。

花鳥風月

非核の政府を求める石川の会が「平和事業に関する自治体アンケート」を開始した二〇一二年度は、県内加盟都市は五ヵ所だけだったが、当会からの働きかけと平和首長会議からの呼びかけにより、毎年加盟が着実に増え、本年七月一日付の加賀市と能美市の加盟により、県内自治体の一〇〇％加盟が実現しました▼二〇一六年度平和事業に関する自治体アンケートでは、加賀市は「加盟することとし、手続きをすすめている」、能美市は「平成二八年度中に加盟する」と回答しており、両市とも五月下旬に加盟申請し、平和首長会議の承認待ちになっていました▼平和首長会議は二〇二〇年までの核兵器廃絶をめざしており、加盟後の活動例として「核兵器禁止条約の交渉開始等を求める市民署名活動の展開」「広島・長崎の被爆の実相を伝える活動及び各自治体における平和活動の実施と報告」等を提唱しています▼今年の平和事業アンケートの回答には、平和首長会議に加盟していても〝当該予算ゼロ〟〝平和事業の計画なし〟の自治体が散見されます。この度の県内自治体の一〇〇％加盟を契機に、当会では引き続き、全ての自治体における非核・平和行政の拡充を要請していきます。（か）

なお、珠洲市も同様にパネルの貸し出しを提案しましたが、市主催のパネル展の開催には至りませんでした。

◎中能登町の平和行進・歓迎集会は、杉本栄蔵町長が毎年必ず参加され、町長メッセージを披露されています。今年も杉本町長と甲部昭夫議長はじめ二一人の職員のみなさんに出迎えていただき、平和行進ペナントやペットボトル募金（被爆者・連帯救援募金）、「ヒバクシャ国際署名」を受け取りました。行進参加者は一五人。

杉本栄蔵町長（右）から行進ペナントを受け取る

◎野々市市役所前で開いた出発式には二二人が参加。野々市市から粟貴章市長、早川彰一市議会議長の激励挨拶をいただきました。市長と議長が揃って出発式に参加し、挨拶されるのは野々市市だけです。

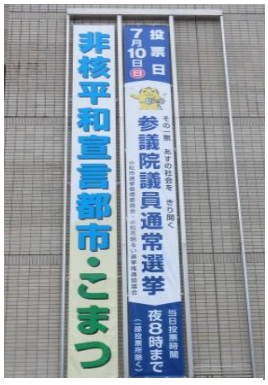
粟貴章市長（右）から「ヒバクシャ国際署名」等を受け取る

◎川北町主催による「原爆と人間」パネル展が今年初めて実現しました。これは平和行進実行委員会が五月半ばに川北町を訪問した際に「原爆と人間」パネルの貸し出しを提案し、受け入れられたものです。六月二二日午前九時、平和行進の参加者一二人が副町長との懇談のため川北町文化センターを訪問したときまでパネル展が行われていました。行進参加者との懇談では、教員OBである副町長から川北中学校が二〇数年前から広島への修学旅行を継続していることや被爆の実相を次の世代に伝えていくことの大切さを語られ、大変感銘を受けました。

◎川北町役場を午前九時半に出発し、能美市役所に到着したのは丁度一〇時半です。能美市の歓迎集会には毎年たくさんの職員の参加があり、今年は五〇人余の職員が朝礼のように参列して出迎えていただきました。能美市と加賀市の平和首長会議への加盟が七月一日付で承認され、県内自治体の一〇〇%加盟が実現しました。

能美市の歓迎集会には毎年たくさんの職員の参加がある

◎小松市役所では毎年六月の平和行進の時期に「非核平和宣言都市・こまつ」の懸垂幕を掲出しています。長さが六メートルもある大きな懸垂幕が今年は六月一六日から二三日まで掲出されました。六月二二日に公示された「参議院議員通常選挙」と「非核平和宣言都市・こまつ」の懸垂幕が並んで掲出されており、市役所内での期日前投票所に多くの市民が訪れていました。



小松市役所に掲出された懸垂幕

◎最終日の加賀市での平和行進と福井県への引き継ぎ式には、金沢市はじめ他の市町在住者も応援に駆け付けます。六月二四日の平和行進には一七人、引き継ぎ式には送迎も兼ねて約三〇人の参加がありました。このうち非核の政府を求める石川の会会員七人が加賀市役所から福井県吉崎までの全行程を行進しました。

最終日の行進に参加した本会会員

◎行進参加者が福井県吉崎に到着したのは午前一一時半。拍手で迎えていただいた福井県行進団への引き継ぎ式が行われました。引き継ぎ式には石

【富山＝広島コース】

◎国民平和大行進では昨年から「国際青年リレー行進」のたすきが全国一一コースで活用されています。昨年は「富山＝広島コース」ではこのたすきは二本でしたが、今年は五本用意されていました。行進に参加する青年を増やし、青年に行進をリードしてほしい、という期待があるためです。

川県から約三〇人、福井県から約五〇人の参加がありました。福井県に引き継いだものは「富山＝広島コース」の横断幕、「国際青年リレー行進」のたすき五枚。この外、全日本年金者組合、全国商工団体連合会、日本医療労働組合連合会、新日本スポーツ連盟、全国勤労者山岳連盟などの団体旗です。

引継ぎ地点の福井県吉崎まであと少し

全国一一コースある横断幕は各都道府県・各自治体を網の目のように（横につなぐもの）、今年五本に増やされた「国際青年リレー行進」のたすきは各地域での平和行進の世代間継承（縦につなぐ）に大いに役立つことを実感しました。

（本会事務局長）

【編集部より】

非核の政府を求める石川の会ＨＰ（http://hikakuishikawa.com/）に今年の平和行進・県内コースの参加レポート全文が掲載されています。

非核の政府を求める石川の会 二〇一六年度活動方針（要点）

米国の「拡大抑止」は核兵器使用が前提

被爆七〇年、二〇一五年に開かれた第九回核不拡散条約（ＮＰＴ）再検討会議や第七〇回国連総会の論議は、核兵器が人類と共存できない非人道兵器であり、核兵器を廃絶するための法的措置を求める声が、国際政治でも圧倒的多数となっている。しかし、核保有国と「核の傘」に依存する国々は、核兵器禁止の法的措置を求める国際的な流れを妨害している。日本政府は、二〇一五年四月に合意した「日米防衛協力のための指針（新ガイドライン）」で、米国の「拡大抑止」（いざという場合の核兵器使用）を求める立場を明記し、米国の「核の傘」への依存を強めている。

戦争法廃止と「核抑止力」依存からの離脱

安倍内閣が四月一日に閣議決定した「憲法は核兵器を禁止せず」の政府答弁書は、戦争放棄と戦力の不保持、交戦権を否定した憲法九条を全否定するきわめて重大な問題である。このような核戦争も含む米国の海外での戦争に加担する「国づくり」を推進するのが安倍内閣の戦争法＝安保法制の本質である。したがって戦争法を廃止する政権を実現することは、戦争法の根底にある「核抑止力」依存をも問うことになる。戦争法廃止と、「核抑止力」依存から離脱して核兵器禁止・廃絶を求める日本をつくる――非核の政府を求める石川の会の出番である。

安倍政権の明文改憲を阻止するために

安倍政権は、「戦争する国づくり」をさらに推進するため、戦力不保持を規定する憲法九条二項の削除、首相の権限強化や国民の権利を制限する「緊急事態条項」の創設など、明文改憲を策動しており、夏の参議院選挙で憲法改正の発議に必要な改憲派三分の二以上の議席をめざしている。

七月一〇日投開票の参議院選挙は、安倍政権の戦争法の発動、明文改憲を阻止し、戦争法の廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回の展望を切り開く重要な国政選挙となる。戦争法廃止を求める大きな国民運動が野党を動かし、（安倍政権VS野党共闘）という分かりやすい対決構造が生まれている。市民と野党が共同して参院選統一候補の勝利のため全力を挙げよう。

米軍基地の存在は抑止力か？

六月五日投開票の沖縄県議選挙では、米軍普天間飛行場〔宜野湾市〕の名護市辺野古移設に反対する候補が議席を増やし、過半数を維持した。沖縄のたたかいは安倍政権の「戦争をする国づくり」に対峙している。

「沖縄新基地反対は、これは核兵器をめぐる抑止力論とも相通ずる、抑止力論批判を展開する必要があります。そういう議論を前に押し出していく中でこそ、この戦争法廃止の運動も成し遂げられるのではないかと思っています。」（二〇一六年一月一一日、非核の政府を求める会シンポジウム『戦争法』推進と『核抑止力』依存」での小澤隆一・東京慈恵会医科大学教授の発言）

原発に固執するねらいは〝潜在的抑止力〟

安倍政権が、二〇一四年四月に閣議決定したエネルギー基本計画は、原発を「重要なベースロード電源」と位置づけ、二〇一五年七月に決定した長期エネルギー需要見通しは、二〇三〇年度の発電電力量のうち二〇％～三〇％を原発で賄うとしている。福島第一原発事故後、自民党の石破茂幹事長

（当時）は「日本は核を持つべきとは思わない、だが作ろうと思えばいつでも作れる、一年以内に作れる、それはひとつの抑止力ではあるでしょう。それを本当に放棄していいですか？」と発言している（二〇一一年八月一六日、テレビ朝日「報道ステーション」）。

原発に固執する安倍政権の真の狙いは、〝潜在的核抑止力〟です。核兵器と原発は不可分のものであり、共に廃絶しましょう。

（一）非核・平和行政の発展のための自治体への働きかけ

◎「非核・平和行政に関する自治体アンケート」を継続実施し、集計結果は会報及びＨＰに公開します。

◎アンケート集計結果にもとづき、非核・平和行政に関する市長・町長との懇談や自治体訪問・取材を継続実施します。

◎二〇一六年四月に発行した『非核・平和の自治体づくり』を活用し、平和首長会議未加盟自治体には加盟を要請するとともに、全ての自治体に被爆体験の継承と普及、「被爆者連名による核兵器廃絶国際署名」への賛同など非核平和行政の拡充を働きかけます。

（二）原子力政策の学習など行い、他の非核・平和運動との連帯

◎今年はチェルノブイリ原発事故から三〇年、東京電力福島第一原発事故から五年という節目の年です。安倍政権の原発再稼働ありきの「新エネルギー基本計画」への批判を強め、原発に依存しない社会をめざし、原発ゼロをもとめる運動との連携を強化します。

◎北陸電力志賀原発の再稼働に反対し、再生可能エネルギー政策への転換を求める取り組みに参加します。また福井県にある高浜原発及び大飯原発の再稼働反対運動についても支援を行います。

（三）安倍政権による「戦争する国づくり」を阻止し、核兵器廃絶と非核・平和の日本を

◎安保法制の廃止、集団的自衛権の行使容認の閣議決定を撤回する政権づくりのため、国政選挙での野党共闘、統一候補の擁立をめざす市民団体との協力・共同の取り組みを進めます。

◎日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が提唱した「被爆者連名による核兵器廃絶国際署名」に賛同し、署名活動を推進します。

◎二〇一六年原水爆禁止国民平和大行進と世界大会、日本平和大会の成功をめざします。原水爆禁止世界大会in広島（八月四日～六日）及び日本平和大会in三沢（一〇月二二日～二三日）に代表派遣します。

（四）被爆の実相の普及、被爆者との連帯強化

◎核兵器の非人道性、被爆の実相を次の世代に伝えることは、「核抑止力」論を打破し、核兵器廃絶の世論と運動をひろげるうえで特に重要です。

◎石川県原爆被災者友の会発行『ヒロシマ・ナガサキ　あの日、あの時、そして今』の普及に協力します。

◎ＮＰＯ法人はだしのゲンをひろめる会の漫画『はだしのゲン』『Barefoot Gen』の寄贈・普及運動に協力します。

◎反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会のピースデー二〇一六（七月二四日、金沢市卯辰山・平和の子ら像前）及び「平和のパネル展」（原爆と人間展＆ちひろの平和パネル：八月三日～一七日、石川県庁一九階展望ロビー）の開催に協力します。

◎核戦争を防止する石川医師の会の国連・核兵器廃絶国際行動デー／映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」上映会（九月二五日、石川県教育会館ホール）の開催に協力します。

（五）会の組織的強化のために

◎「入会リーフレット」を作成し、個人会員一五〇人（実増二〇人）を目標に会員拡大を推進します。

◎ 団体会員の拡大も二〇団体（実増四団体）を目標に意識的に追求します。

◎常任世話人会と編集委員会の定期開催を励行します。

◎ホームページの充実・活用。

◎活動の発展に伴う健全財政確保のため、会員拡大に努めるとともに原水爆禁止世界大会及び日本平和大会への代表派遣募金の取り組みを強化します。

県内全ての市町が平和首長会議に加盟

（2016年7月1日現在）

加盟年	自治体名	加盟累計
2008年	野々市市(注)	1
2009年	内灘町、金沢市	3
2010年	珠洲市	4
2011年	七尾市	5
2012年	かほく市	6
2013年	川北町、志賀町、中能登町	9
2014年	津幡町	10
2015年	白山市、羽咋市、宝達志水町、能登町、輪島市	15
2016年	穴水町、小松市、加賀市、能美市	19

（注）野々市町は2011年11月に野々市市に移行した

ヒバクシャ国際署名をすすめる石川の会を発足

新たに提起された「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」推進についての相談会が、石川県原爆被災者友の会の呼びかけで六月二七日（月）、金沢市松ヶ枝福祉館で行なわれました。最初に、西本多美子原爆被災者友の会会長は「オバマ大統領の広島訪問のニュースは話題にはなりましたが、やはり地道に運動を進めるしかありません。今回の署名は初めて被爆者が訴えるということで、二〇二〇年までに世界で数億人の規模でということが決まっているだけで、運動は各地域・組織ごとに自主的に進めることとなっていますので相談会を持ちました」と趣旨を説明しました。

続いて、各団体の取り組み状況を交流しました。石川原水協は「四月から取り組みを開始し、既に六・九行動を二回実施した。五月には県内各自治体を回って職員中心に二八三八筆、八つの自治体の首長・議長の署名ももらった。いわさきちひろの絵の入ったカラー刷りの署名用紙が届いたところ」。石川民医連は「三月の全日本民医連総会で提起され、各県はアクションプランを作って取り組むことになっている。厚紙A四裏表、カラー刷りの独自の署名用紙が届いたばかり。本日の県連理事会で論議して提起する」。核戦争を防止する石川医師の会は「前回NPT再検討会議の運動以降、毎年やっているので今回も取り組んでいきたい。広く諸団体、個人としても参加できるような運動にしたい」。その他として「どのように取り組むか今日の相談会の状況を持ち帰って検討したい」「署名用紙を待っていたところ」などで、当日欠席を含めて一〇団体が参加の意思表示をしました。

今後の運動の進め方については、①署名に取り組む団体の調整・連絡のため「ヒバクシャ国際署名をすすめる石川の会」を作り、集約を石川原水協にお願いする。②署名用紙は原水協のものを取扱い、団体名は白紙にして作り直す。③スタート宣伝を七月一六日（土）一三時半～一四時半、武蔵が辻近江町市場側として参加者を募ることとしました。

（池田治夫）

お知らせ

故 清水正明医師の「原爆・被爆絵画展」ご案内

本紙二〇一三年九月号から一三回シリーズ紹介した故 清水正明氏（輪島市の元 清水医院院長）の「原爆・被爆絵画展」が今年も左記の日程で計画されています。

この原爆被爆絵画は、一九四五年八月六日、軍務として広島市で被爆された清水正明氏が、被爆者として「語らねばならない、書き残さねばならぬ」との思いで、その被爆の悲惨な状況を描かれた一三点の油絵です。一九九五年、戦後五〇年を機に清水氏が輪島市に寄贈されたものです。

輪島市では、核兵器の廃絶や戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝えていくために毎年八月に「原爆・被爆絵画展」を開催しています。

記

日時　八月九日㈫～八月一七日㈬
　　午前九時～午後五時
会場　輪島市文化会館二階展示室
主催　輪島市・輪島市教育委員会
◎この他、輪島市内各中学校にて八月一日㈪～八月七日㈰にかけて展示されます。

核兵器禁止条約制定の具体的な交渉の開始の世論を更に大きく！

中村昭一常任世話人を派遣決定

二〇一六年原水爆禁止世界大会in広島は、八月四日㈭から六日㈯まで広島市で開催されます。非核石川の会は、石川県代表団の一員として中村昭一常任世話人の派遣を決定しました。

派遣費用の募金お礼と報告

前号の会報「非核いしかわ」で派遣費用のお願いをしましたところ、早速一二人様から二五五〇〇円の募金が寄せられました。心からお礼を申し上げご報告をいたします。

引き続き

派遣費用は約六万円の予定です。何かとものいりな折から誠に恐縮ですが、引き続き派遣費用のご協力をお願い申し上げます。

非核の政府を求める石川の会
常任世話人会

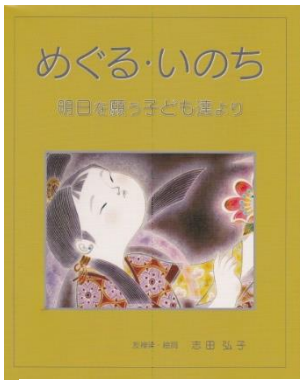
非核・平和のひろば

友禅染・絵詞『めぐる・いのち』紹介

山口修治

七尾市在住の友禅作家の志田弘子さんが、友禅染・絵詞『めぐる・いのち』を発刊されました。五年前に第一作の『きっと　きっと』を発刊され、第二作となる今回は、福島第一原発事故後の五年間に志田さんが心痛め外に向かって発せざるをえないあふれる思いが、安価（一〇〇〇円）ですばらしい本になりました。志田さんのあふれる思いを知ってほしい、伝えたい、共感し合いたいという思いが本になりました。

「みんなどこに行った」「鬼となりても」「翔る」などなど、どのページの絵詞も心に染みわたり、読み終えると何故かホッと安堵感を覚えます。そして、なんとしても原発を無くさなければ、戦争法を廃止にしなければ、と、思いを強めてくれる本です。みなさんにお勧めいたします！！



友禅染・絵詞

志田弘子（作）

参議院選挙を終えて

◎日本の明日に大きく影響する参院選が終わった。私たちはこの結果から何をどう学びとるか。

私には参院選の原風景として蘇る映像がある。一九五二年衆院選の後、「岸信介攻撃で自民党を除名され、参院選に鞍替えして当選した」とされる辻政信だったか、幼少の頃住んでいた瓢箪町校下の裏路地にまでやって来て、オート三輪の荷台に立って辻立ち（街頭演説）して回る選挙風景だ。

四日の北陸中日新聞で、河村和徳氏（東北大准教授・政治学）のコメントにも、テレビニュースで全県下くまなく回り地域住民と握手を繰り返す候補者風景など、いわゆる「地上戦」と「空中戦」について述べられていた。

選挙活動や日常の市民運動も含め、感ずるところの多い選挙結果だった。ここから深く学びとり、立憲主義のもと、平和と民主主義の明日の日本に生かしてゆくことが大切だと思う。

（編集委員　永山孝一）

◎選挙中の対話で、「書いてあることは正論だけど…」という声によく出会いました。選挙結果は、この「けど…」に象徴される〝心の壁〟によるものが大きい、と感じました。しかしながら気分感情の問題に、容易な解決法などありません。非合理を理性で越えるのは、もともと困難なものです。

しかし人間は、かつて地動説を唱えて宗教裁判にかけられ、肌の色が違うからと差別されてきましたが、一歩一歩それを克服し、今日の時点における社会意識を作ってきました。

いつの日か「日本共産党（と共闘）」と聞くと引いてしまう時代が過ぎ去り、唯物論と弁証法の統一理論が最も科学的な世界観であるという社会的合意が、強制せずとも形成され、それを先駆的に唱えてきた人々に対する敬意が行き渡ると、私は〝心の壁〟は自然と氷解するもの、と考えています。それには長い時間が必要ですが、私はガリレオの『それでも地球は動く』の気分です。

人の心の中にある差別意識は古来より無数に存在し、為政者はそれを巧みに操り、時には蔑視と敵愾心を煽り立て、人々を分断して侵略戦争に駆り立てたのは、隠すことの許されない歴史の事実です。

安保法制と表裏一体のアベノミクスの本当の下心は、経済の軍事化と関係業界の大儲けにあることがバレれば、人心の支持は一気に失われることも有り得ます。

人々が〝心の壁〟を乗り越え、真の改革者と民衆が手を取り合えば、歴史は一歩前に進むでしょう。

（編集長　中村昭一）

非核石川の会　リレーエッセー

戦争か平和か

渡辺裕子

私の中学の修学旅行は京都と広島でした。その修学旅行で初めて広島の原爆資料館に行きました。しかし、当時の私は悲惨な現実を直視することができず、ろくに見ないまま資料館を出てしまいました。あとで後悔しましたが、そのころの私は無知で、自分への関わりが見えていなかったんだと思います。

民青同盟に入り、いろいろな学習や独習をするようになって日本の戦争について少しずつ知りました。フィリピンの戦争に完全な敗北をとげ、もう

戦争に活路はないことは誰の目にも明らかなのに、天皇制国家の指導者たちはこの体制を維持するために和平交渉を拒んだこと。あのとき和平交渉に踏み切っていれば、八月の広島、長崎への原爆投下もなかった可能性が大きいことを知り、戦争は人の命よりも優先されるものを生み出し、しかもその優先されるものは圧倒的多数の人にとっての利益ではなく、ほんの一部の人にとっての利益のためで、そんなものを人の命の上に置く。それが戦争なんだと思いました。

中学生のときは目をそらした現実を受け止めるためにも、もう一度原爆資料館に行きたいと思っていたときに二〇一二年の原水爆禁止世界大会に参加できることになりました。

私は空き時間に、ひとりで原爆資料館に行き、今度は時間をかけて館内をまわりました。そのとき、ふと気になったのが石段に焼き付いた人影が年々薄くなっているとは聞いていましたが、本当に中学生のころよりも薄くなっている気がして、こうやって時間が経つにつれこうした痕跡もうすれ、被爆の実態を語ってくれる被爆者もいなくなってしまうんだと思い、余計に「自分は知らない、関係ない」ではすまされないと思いました。

この文章を書いているときは参議院選挙真っただ中です。今回の選挙は「戦争か平和か」が問われる選挙であり、これまでになく若い世代が立ち上がった選挙です。有名になったＳＥＡＬＤｓの学生たちの活動するきっかけを聞いていると、祖父母の戦争体験を聞いてという人が少なくないということを感じました。これは戦争を経験した先輩方の努力が着実に実を結び、今につながっていると思います。今度は私たちがそれを引き継いでいく番だと思います。

詩人会議かなざわ「独標」より

弥生のそらは

大川陽一

五年前の三月は
春まだ寒い　昼下がり
大地が震え　おおきな波が寄せ
透明な風が吹き
たくさん　いのちが　さらわれた
大声で呼ぶ名前は
海風にかき消され
空と海の彼方へ

同じ三月の終わり
わが家で
ちいさな　いのちが　消えた
娘の　うでの中　消えた
抱き上げたぬくもりは
今も　この指が覚えていて
あなたが　私たちの
家族であった意味を
あなたが　伝えたかったことを
あれこれ考えて

大乗寺動物霊園には
いくつかの　真新しい新しい花が添えられ
林の樹々は
遅い春の訪れを　待っていた
掌を合わす　視線の先の山並みに
生きたかった人々の　想いを探す
東北の空の下
生きねばならない人々の
想いを辿る

《編集室より》

◎今年の参院選では安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民の後押しにより、全国三二の一人区全てで野党統一候補が実現し、市民と野党共闘による〝市民参加型の選挙〟が行われた。石川選挙区で柴田未来候補を全力で支援したいしかわ市民連合の取り組み、特にＳＥＡＬＤｓに学んだ街頭宣伝を記録に留めておきたい。

○街頭宣伝は、候補者が街宣車の上から市民に訴える形から市民が候補者を囲み、市民と候補者が一体となる絵を作る。

○色・フォントをすべて統一した「みんなで選挙をつくろう」「市民が変われば、政治が変わる」「政治が変われば、暮らしが変わる」等の共通プラカード、のぼり旗等の作成。

○街頭宣伝は賛同団体・賛同人に呼びかけて、毎週火曜日と週末に市民や若者たちが集まる場所（香林坊アトリオ前、竪町通り入口、杜の里イオン前等）で繰り返し実施。

○投票を呼びかける「ＨＯＷ　ＴＯ　ＶＯＴＥ（投票ガイド）」「一五分でわかる公職選挙法」等のリーフレットを大量に活用・配布。

○ネット広報では、いしかわ市民連合ホームページを開設し、Ｆａｃｅｂｏｏｋや Ｔｗｉｔｔｅｒの積極的活用とメーリングリストによる情報の共有化。

選挙戦の争点の顕在化により勝利した東北や沖縄等の教訓に学び、市民と野党共闘のいっそうの発展により、今後の国政選挙につなげていきたい。（か）

「被爆者が描いた体験画展」㉒

石川県原爆被災者友の会　中田喜重

八月六日被爆後、頭が割れたある女子学徒報国隊員

頭が割れているのを両手で押さえている。治療するから手を離せと言ったが、手を頭から離さない。

仕方なく、そのままの姿で治療する。後日、手を放して治療するも、死亡する。

原爆投下一分後の広島市

一分前まで立ち並んでいた家並みは一瞬にして瓦礫と木片と化した。

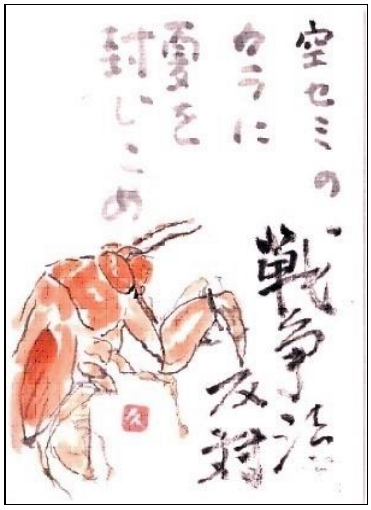
悪夢のような瞬間である。

この時すでに市内では随所方々で火災が起っていた。

（1997年7月7日、中田喜重撮影）

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　田伏久子



◎本紙前号のコラム欄の題名「花鳥風月」が印刷ミスにより、印字されなかったことをお詫びいたします。

≪非核平和・行事予定≫

月	日	曜	時	内容	場所
7	23	土	14:00	原発を考える女性の会総会記念講演／立石雅昭さん	金沢市近江町交流プラザ4階
	24	日	10:00	「反核・平和おりづる市民のつどい2016」	金沢市卯辰山公園 平和の子ら像前広場
	29	金	18:30	原水爆禁止世界大会学習と壮行会	金沢市京町勤医協会館
	31	日	10:00	2016年いしかわピース9フェスティバル	白山市美川文化会館
8	3日（水）～17日（水）			反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会「原爆と人間展」&「ちひろの平和のパネル」	石川県庁19階展望ロビー
	4日（木）～6日（土）			原水爆禁止世界大会in広島	広島市
	6	土	8:15	広島の日	
	6	土	15:00	医療・福祉問題研究会総会記念講演／河合克義さん	石川県社会福祉会館4階中ホール
	8日（月）～9日（火）			原水爆禁止世界大会in長崎	長崎市
	9	火	11:02	長崎の日	
			12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
			10:00～16:00	戦後71年　原爆パネル展	金沢市近江町いちば館ひろば
	15	月	12:00	終戦の日	
			12:00	沖縄連帯宣伝行動	金沢市武蔵町Mza前
	20日（土）～21日（日）			2016年日本母親大会in石川・福井　（詳しくは実行委員会へ076－216－8022）	
	21	日		同上記念講演　いのち輝く平和な沖縄・日本を　講師島洋子さん＝石川県産業展示館4号館	
	27	土	11:00	9条の会北陸ブロック交流会／講師　高田健さん	金沢市西念金沢勤労者プラザ
	29	月	18:30	原水爆禁止世界大会報告会	金沢市京町勤医協会館
9	10	土	13:30	治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟石川県本部総会	金沢市西念金沢勤労者プラザ
	15	木	12:00	沖縄連帯宣伝行動	金沢市武蔵町Mza前
	25	日	13:00	核戦争を防止する石川医師の会「核兵器廃絶国際行動デー／映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」	石川県教育会館3階ホール

＊祝日は休日としています　＊毎週金曜日18：30　どいね原発アピール行動　金沢駅東口